資治通鑑 第 102 巻

令和 3 年 12 月 12 日

【晉紀二十四】　起屠維大荒落，盡上章敦牂，凡二年。

■東晋、▲前燕、（続国訳漢文大成．経子史部 第 6 巻 198p）

海西公下太和四年（己巳，３６９年）

【桓溫の前燕攻略と慕容垂の活躍】

■［桓溫は慕容恪なき燕を討つ、郗愔の子の超の機転］春，三月，大司馬の**溫**は徐、兗二州刺史の**郗愔**、江州刺史の**桓沖**、豫州刺史の**袁真**等と與に燕を伐たんと請う。初め，**愔**は北府（京口、江蘇省金陵道丹徒県治、現・鎮江市京口区）に在り，**溫**は常に雲う、

「京口の酒は飲む可く，兵は用いる可し。」

深く**愔**が之に居るを欲せず。而るに**愔**は事機に暗く，乃ち**溫**に箋を遣わして，共に王室を奬めんと欲し，所部を督して河上に出るを請う。**愔**の子の**超**は**溫**の參軍為り，取りて視，寸寸に毀裂し，乃ち更めて**愔**の箋を作り，自ら陳ず、

「將帥の才は非ず，軍旅に堪えず，老いて病む，乞う閒（続は閑）地に自ら養わん」，

溫に勸めて幷せて己が統べる所を領せしむ。**溫**は箋を得て大いに喜び，即ち**愔**を冠軍將軍、會稽內史に轉じ，(6-199p) **溫**は自ら徐、兗二州刺史を領す。夏，四月，庚戌（元嘉暦５月１日），**溫**は步騎五萬を帥いて姑孰を發す。

▲甲子（元嘉暦５月１５日），燕主の**暐**は**皇后**に**可足渾氏**を立て，**太后**は從弟の尚書令の豫章公の**翼**之女也。

■［郗超は早急に燕を攻める危険を進言］大司馬の**溫**は兗州より燕を伐つ。**郗超**は曰く、

「道は遠く，汴水は又た淺く（戰乱で浚渫せず），恐らくは漕運は通り難し。」

溫は從わず。六月，辛丑（２１日），**溫**は金鄉（高平郡に属す、山東省済寧道金郷県、現・済寧市金郷県）に至り，天は旱し，水道は絕え，**溫**は冠軍將軍の**毛虎生**をして巨野三百裡を鑿ち，汶水を引きて清水に會せ使む。**虎生**は，**寶**（蘇峻を平らげる功あり）之子也。**溫**は舟師を引いて清水より河に入り，舳艫は數百裡。**郗超**は曰く、

「清水の河に入るは（川を溯るので困難），以て運を通じ難し。若し寇が戰わずば，運道は又た絕え，敵に因りて資と為さんとし，復た得る所無くば，此くは危うき道也。盡く見衆を擧げて直ちに鄴城に趨くに若かず，彼は公の威名を畏れ，必ず風を望んで逃潰し，北に遼、碣に歸らん。若し能く出でて戰えば，則ち事は立ちどころに決す可し。若し鄴に城きずきて而して之を守らんと欲すれば，則ち當に此の盛夏にて，功力を為し難し。百姓は野に布き，盡く官の有と為らん，易水以南は必ず臂を交えて命を請わん矣。但だ恐らくは明公は以うに此の計は輕銳にして，勝負は必し難しとし，持重を務めんと欲すれば，則ち兵を河、濟に頓し，漕運を控引し，資儲の充備を俟ち，來夏に至りて乃ち兵を進めるに若くは莫し。賒遲（遠く遅い）なるが如しと雖も，然も成功を期す而して已。此の二策を捨てて而して軍を連ねて北上すれば，進みて速やかに決せず，退きて必ず愆乏（違い欠乏すの意、運送が滞り食欠乏）す。賊は此の勢いに因りて日月を以て相い引き，漸く秋冬に及べば，水は更に澀滯（渋滞）せん。且つ北土は早く寒くなり，三軍の裘褐（毛織りの防寒服）する者は少く，恐らくは時に於いて憂うる所，獨り食無き而して已むに非らず。」

溫は又た從わず。

■［桓溫は湖陸を破る］**溫**は建威將軍の**檀玄**を遣わして湖陸（高平郡に属す、山東省済寧道魚臺県、現・済寧市魚台県）

を攻め，之を抜き，燕の寧東將軍の**慕容忠**を獲る。燕主の**暐**は下邳の**王厲**を以て征討大都督と為し，步騎二萬を帥いて逆えて黃墟（河南省開封道杞県、現・開封市杞県）に戰い，**厲**の兵は大敗し，單馬にして奔り還る。高平太守の**徐翻**は郡を擧げて來降す。前鋒の**鄧遐**、**朱序**は燕將の**傅顏**を林渚（河南省開封道新鄭県、現・鄭州市新鄭市）に敗る。**暐**は復た樂安王の**臧**（暐の兄）を遣わして諸軍を統べて**溫**を拒がしめ，**臧**は抗する能わず。乃ち散騎常侍の**李鳳**を遣わして秦に救いを求めしむ。

■▲［慕容垂は反撃を志願］秋，七月，**溫**は武陽（東武陽、山東省東臨道朝城県、現・聊城市莘県）に屯し，燕の故の兗州刺史の**孫元**は其の族黨を帥いて兵を起こして**溫**に應じる。**溫**は枋頭に至り，**暐**及び太傅の**評**は大いに懼れ，和龍に奔らんと謀る。吳王の**垂**は曰く、

「臣は之を擊つを請う。若し其の捷たざれば，走るとも未だ晩(おそ)からざる也。」

暐は乃ち**垂**を以て樂安王の**臧**に代わりて使持節、南討大都督と為し，征南將軍の范陽王の**德**等衆五萬を帥いて以て**溫**を拒ましむ。**垂**は表司徒の左長史の**申胤**、黃門侍郎の**封孚**、尚書郎の**悉羅騰**（氐族）を表して（6-200p）皆な軍に從わしむ。**胤**は，**鐘**（95 巻成帝咸和九年に見える）之子、**孚**は，**放**（99 巻穆帝永和七年に見える）之子也。

▲前秦▲［前秦は王猛の策により前燕を救援］**暐**は又た散騎侍郎の**樂嵩**を遣わして秦に救いを請わしめ，賂(あがな)うに虎牢以西之地を以てするを許す。秦王の**堅**は群臣を引いて東堂に於いて議し，皆な曰く、

「昔**桓溫**（99 巻永和十年に見える）は我を伐ち，灞上に至り，燕は我を救わず。今**溫**は燕を伐つも，我は何ぞ焉(これ)を救わん！且つ燕は我に稱籓せず，我は何為れぞ之を救わん！」

王猛は密かに**堅**に言って曰く、

「**燕**は強大と雖も，**慕容評**は**溫**の敵に非ざる也。若し**溫**が山東を擧げ，進みて洛邑に屯し，幽、冀之兵を收め，幷、豫之粟を引き，兵を崤、澠に觀(しめ)せば，則ち**陛下**の大事は去る矣。今燕と與に兵を合わせ以て**溫**を退くに如かず。**溫**が退けば，燕は亦た病(つか)れん矣，然る後に我は其の弊を承けて而して之を取れば，亦た善からず乎！」

堅は之に從う。八月，將軍の**苟池**、洛州刺史の**鄧羌**を遣わして步騎二萬を帥いて以て燕を救わしめ，洛陽より出でて，軍は潁川（郡、許昌に治す）に至る。又た散騎侍郎の**姜撫**を遣わして燕に報使せしむ。**王猛**を以て尚書令と為す。

▲［申胤は桓溫の弱点を知り抜く］太子の太傅の**封孚**は**申胤**に問いて曰く、

「**溫**の衆は強く士は整い，流れに乘りて直に進み，今大軍は徒(いたず)らに高岸に逡巡し，兵は刃に接せず，未だ克殄之理を見ず，事は將に何如せん？」

胤は曰く、

「**溫**が今日の聲勢を以てすれば，能く為す有るに似たり。然れども吾に在りて之を觀るに，必ず功を為す無し。何となれば則ち？晉室は衰弱し，**溫**は其の國を專制し，晉之朝臣は未だ必ずしも皆な之と同心せず。故に**溫**之志を得るは，衆の願わざる所也，必ず將に乖阻して以て其の事を敗らんとす。又た，**溫**は驕りて而して衆を恃み，變に應じるに怯なり。大衆が深く入れば，乘ず可き之會に值い，反りて更に中流に逍遙して，出でて利に赴かず，久しきを持ちて，坐して全勝を取らんと欲望す。若し糧廩は愆懸(輸送が途絶える)すれば，情は見(あら)われ勢いは屈し，必ず戰わずして自ら敗れるは，此れ自然之數也。」

溫は燕の降人の**段思**を以て鄉導と為し，**悉羅騰**は**溫**と戰い，**思**を生け擒りにする。**溫**は故の趙將の**李述**をして趙、魏を徇(あまね)か使め，**騰**は又た虎賁中郎將の**染干津**と擊ちて之を斬り，**溫**の軍は氣を奪われる。

■［石門は開かず、桓溫の路は通じず］初め，**溫**は豫州刺史の**袁真**をして譙、梁を攻め，石門（河南省開封

路滎澤県、現・鄭州市滎陽市）を開いて以て水運を通ぜ使めんとし，**真**は譙、梁に克つも而るに石門を開く能わず，水運の路は塞がる。

【桓温の敗北】

▲［慕容徳は計略で桓溫の兵を釣る］九月，燕の范陽王の**徳**は騎一萬を帥い、蘭台治書の侍御史の**劉當**は騎五千を帥いて石門に屯し，豫州刺史（燕の刺史は許昌に治す）の**李邽**は州兵五千を帥いて**溫**の糧道を斷つ。**當**は，**佩**（慕容皝の将で石虎・宇文を破る）之子也。**徳**は將軍の**慕容宙**をして騎一千を帥いて前鋒と為さ使め，晉兵と遇う。**宙**は曰く、

「晉人は輕剽にして，敵を陷れるに怯に，退くに乘るに勇なり，宜しく餌を設けて以て之を釣らしむべし。」

乃ち二百騎をして挑戰せ使め，餘騎を分けて三伏（伏兵）と為す。戰いを挑む者は兵が未だ交わらずをして而して走り，晉兵は之を追う。**宙**は伏を帥いて以て之を擊ち，（6-201p）晉兵の死者は甚だ衆し。

■［桓溫の敗戰と後退］**溫**は數々戰いて利あらず，糧儲は復た竭き，又た秦兵の將に至らんとするを聞き，丙申（１９日），舟を焚き，輜重、鎧仗を棄て，陸道より奔り還る。**毛虎生**を以て東燕（郡、東晉は濮陽を分けて置く）等四郡諸軍事を督し，東燕太守を領せしむ。

■**溫**は東燕より倉垣に出で，井を鑿ちて（燕が川流に毒を入れるを恐れる）而して飲み，行くこと七百餘里。

▲［慕容垂の緩急自在に作戰、桓溫大敗北］燕之諸將は爭いて之を追わんと欲し，吳王の**垂**は曰く、

「可からず。**溫**は初めて退きて惶恐し，必らず嚴に警備を設けて，精鋭を簡んで後拒と為し，之を擊つは未だ必ず志を得ず，之を緩めるに如かず。彼は幸いにも吾が未だ至らざれば，必ず晝夜疾く趨らん。其の士衆の力盡き氣衰えるを俟ち，然る後に之を擊てば，克たざるは無し矣。」

乃ち八千騎を帥いて徐行して其の後を躡む。**溫**は果たして兼道して而して進む。數日して，**垂**は諸將に告げて曰く、

「**溫**を擊つ可し矣。」

乃ち急に之を追い，**溫**に襄邑（陳留郡の県、河南省開封道瞧県、現・商丘市瞧県）で及ぶ。范陽王の**徳**は先ず勁騎四千を帥いて襄邑の東の澗中に伏せ，**垂**と**溫**を夾擊し，又た之を破り，斬首三萬級、秦の**筍池**は**溫**を譙に激え擊ち、又た之を擊ち、死者は復た以て萬を計る。**孫元**は遂に武陽に據りて以て燕を拒み，燕の左衛將軍の**孟高**は討ちて之を擒える。

■［桓溫は罪を袁真に歸して叛かれる］冬，十月，己巳（２２日），大司馬の**溫**は散卒を收め，山陽（江蘇省淮揚道淮安県、現・淮安市淮安区）に屯す。**溫**は深く喪敗を恥じ，乃ち罪（石門開かず糧道を斷つ）を**袁真**に歸し，**真**を免じて庶人と為さんと奏す。又た冠軍將軍の**鄧遐**の官を免ず。**真**は**溫**が己を誣すを以て，服さず，**溫**の罪狀を表して，朝廷は報ぜず。**真**は遂に壽春に據りて叛し，燕に降り，且つ救いを請う。亦た遣使して秦に如かしむ。**溫**は**毛虎生**を以て淮南太守（元々壽春に治す）を領し，歷陽（安徽省安慶道和県、現・馬鞍山市和県）を守らしむ。

【前秦と前燕の駆け引き】

▲前秦［燕の郝晷は内実を王猛に漏らす］燕、秦は既に好みを結び，使者は數々往來す。燕の散騎侍郎の太原の**郝晷**（かくき）、給事黃門侍郎の**梁琛**（りょうちん）は相い繼いで秦に如く。**晷**は**王猛**と舊有り，**猛**は接して平生を以てし，**晷**に東方之事を問う。**晷**は燕の政の修まらず而して秦は大いに治まるを見，燕は將に亡びんとするを知

り，陰かに自ら**猛**に托さんと欲し，頗る其の實を洩らす。

▲前秦［燕の梁琛は使者の気概を示す］**琛**は長安に至り，秦王の**堅**は方に萬年（秦の櫟陽、陝西省關中道臨潼県の東北、現・西安市臨潼区）に畋せんとし，**琛**を引見せんと欲し，**琛**は曰く、

「秦の使いの燕に至るや，燕之君臣は朝服して禮を備え，宮庭を灑掃し，然る後に敢えて見る。今**秦王**は野にて之を見んと欲す，使臣は敢えて命を聞かず！」

尚書郎の**辛勁**は**琛**に謂って曰く、

「賓客は境に入れば，惟だ主人の以て之を處する所，君は焉(いずく)んぞ專ら其の禮を制するを得るや！且つ天子は乘輿と稱し，至る所を行在所(あんざいしょ)と曰う，何の常居か之れ有らん！又た，《春秋》も亦た遇禮（春秋隱公四年に公は宋公と清に遇うと、草卒の期にして二國各々その禮を簡にして道路に相逢遇するが若し）有り，何為すれぞ不可ならん乎！」

琛は曰く、

「晉室は綱あらず，靈祚（天子の位）は德に歸し，二方は運を承け，俱に明命を受ける。而るに**桓溫**は猖狂にして，我が王略（王の封彊）を窺い，(6-202p) 燕が危うければ秦は孤になりて，勢いは獨り立たず，是れを以て**秦主**は同じく時患を恤(うれ)え，好援を要結す。東朝の君臣は，領(うなじ)を引きて西望し，其の競わざるを愧じ，以て鄰憂と為し，西使は之を辱(かたじけな)くすれば，敬待すること加える有り。今強寇は既に退き，交聘は方に始まる，宜しく禮を崇く義を篤くし以て二國之歡を固めると謂うべし。若し使臣を忽慢すれば，是れ燕を卑しむ也，豈に修好之義を乎！夫れ天子は四海を以て家と為し，故に行きて乘輿と曰い，止まりて行在と曰う。今海縣（海内。騶衍いわく、中国に赤県神州あり、その中に九州有り、禹の叙す所、その外に裨海が環る）は瓜裂し，天光は曜(ひか)りを分ければ，安んぞ乘輿、行在を以て言を為すを得ん哉！禮に，期せずして而して見るを遇と曰う。蓋し事に因りて權(かり)に行い，其の禮は簡略なり，豈に平居容與之為す所哉！客使は單行にして，誠に勢いは主人に屈す。然れども苟しくも禮を以てせずば，亦た敢えて從わざる也。」

堅は乃ち之が為に行宮を設け，百僚は位に倍し，然る後に客を延くこと，燕朝之儀の如し。事は畢(おわ)り，**堅**は之と私に宴す，問いて、

「東朝の名臣は誰と為すや？」

琛は曰く、

「太傅の上庸王の**評**は，明德茂親，王室を光輔す。車騎大將軍の吳王の**垂**は，雄略にして世に冠たり，折衝（駆け引きして）御侮（外的を防禦す）す。其の餘は或は文を以て進み，或は武を以て用いられ，官は皆な職に稱(かな)い，野に遺賢は無し。」

▲前秦［梁琛は從兄の弈とも節を通す］**琛**の從兄の**弈**は秦の尚書郎為(た)り，**堅**は客を典(つかさど)ら使め**琛**を**弈**の舍に館す。**琛**は曰く、

「昔**諸葛瑾**は吳の為に蜀に聘するや，**諸葛亮**と惟だ公朝に相い見るのみ，退きて私に面する無し，余は竊かに之を慕う。今之をして安（安易）に私室に即か使むるは，敢えてせざる所也。」

乃ち果たして館せず。**弈**は數々來たりて邸捨に就き，**琛**と臥起し，閒々**琛**に東國の事を問う。**琛**は曰く、

「今二方（燕と秦）は分據し，兄弟は並びて榮寵を蒙る，其の本心を論ずれば，各々所在有り。**琛**は東國之美を言わんと欲し，恐らくは西國之欲する所を聞くに非ざるなり。其の惡を言わんと欲すれば，又た使臣之論ずるを得る所に非ざる也。兄は何んぞ問いを用いるを為さん！」

前秦［前秦太子は梁琛を拝せず］**堅**は**太子**をして延きて**琛**の相を見さ使む。秦人は**琛**をして**太子**を拜せ使めんと欲し，先ず之を諷して曰く、

「鄰國之君は，猶ほ其の君の如き也。鄰國之儲君も，亦た何を以て異ならん乎！」

琛は曰く、

「**天子**之子は元士（禮紀に天子の元士は士なり）と視なし，其の賤より以て貴に登らんと欲する也。尚ほ敢えて其の父之臣をすら臣とせず，況んや它國之臣を乎！苟しくも純敬無ければ，則ち禮は往來（出入り）する有り，情は豈に恭を忘れんや，但だ降屈（太子も答えて拝すべき）するを煩わしと為すを恐れる耳。」

乃ち果たして拜せず。

前秦**王猛**は**堅**に**琛**を留めるを勸め，**堅**は許さず。

【慕容垂の前秦への亡命】

▲［慕容評と太后は慕容垂の誅殺を謀る］燕主の**暐**は大鴻臚の**溫統**を遣わして**袁真**を拜して使持節、都督淮南諸軍事、征南大將軍、揚州刺史とし，宣城公に封ず。**統**は未だ淮（淮水）を逾えず而して卒す。(6-203p)

吳王の**垂**は襄邑より鄴に還り，威名は益々振い，太傅の**評**は愈々之を忌む。**垂**は奏す、

「募る所の將士は身を忘れて效を立て，將軍の**孫蓋**等は鋒を摧（続は椎）き陳を陷とす，應に殊賞を蒙るべし。」

評は皆な抑えて而して行わず。**垂**は數々以て言を為すに，**評**と廷爭し，怨隙は愈々深し。太后の**可足渾氏**は素より**垂**を惡み（100 卷穆帝升平元年），其の戰功を毀り，**評**と密かに之を誅さんと謀る。太宰の**恪**之子の**楷**及び**垂**の舅の**蘭建**（昌黎郡棘城県の出身、燕を簒奪する蘭汗の兄弟、この後慕容垂と洛陽に亡命）は之を知り，以て**垂**に告げて曰く、

「先ず發すれば人を制す，但だ**評**及び樂安王の**臧**を除けば，餘は能く為す無き矣。」

垂は曰く、

「骨肉相い殘い而して首として國を亂すは，吾は死有り而して已む，為すに忍びざる也。」

之れ頃くして，二人は又た以て告げて，曰く、

「內意（太后の意）は已に決す，早に發せざる可からざるなり。」

垂は曰く、

「必ず彌縫（取り繕う）す可からず，吾は寧ろ之を外に避け，餘は議する所に非ざるなり。」

▲［慕容垂の世子令の進言］**垂**は內に以て憂と為せども，而るに未だ敢えて諸子に告げず。世子の**令**は請いて曰く、

「尊（父親を呼ぶ）は比者憂色有るが如し，豈に**主上**の幼沖にして，太傅は賢を疾み，功は高く望は重く，愈々見猜わ見るを以てすに非ざる邪？」

垂は曰く、

「然り。吾は力を竭くして命を致し以て強寇を破り，本より家國を保全せんと欲す，豈に功成之後，返りて身の容れる所無さ令むを知らんや。汝は既に吾の心を知る，何を以て吾が謀を為すや？」

令は曰く、

「**主上**は闇弱にして，太傅に委任し，一旦禍い發すれば，駭機（弩、弓矢）より疾からん。今族を保ち身を全うし，大義を失わざるを欲せば，之を龍城に逃げるに若くは莫し，遜辭して謝罪し，以て**主上**之察するを待てば，**周公**之東に居るが若し，庶幾くは以て（主上は）感寤して而して還るを得る可し，此れ幸い之大なる者也。如し其の然らざれば，則ち內に燕、代を撫で，外に群夷を懷かし，肥如之險（盧龍の塞、現・秦皇島市盧竜県北部）を守り以て自ら保てば，亦た其の次也。」

垂は曰く、
「善し！」
▲［慕容垂は狩と称して逃亡、発覚し窮地に］十一月，辛亥（?朔は丁丑）朔，**垂**は大陸（澤の名前、直隷省大名道任県の東北、現・河北省邢台市任沢区）に畋せんと請い，因りて微服して鄴を出で，將に龍城に趨かんとす。邯鄲に至り，少子の**麟**は，素より**垂**の愛する所と為さず，逃げて還りて狀を告げ，**垂**の左右は多く亡げ叛く。太傅の**評**は燕主の**暐**に白し，西平公の**強**を遣わして精騎を帥いて之を追わしめ，范陽に及ぶ。世子の**令**は後を斷ち，**強**は敢えて逼らず。日暮に會して，**令**は**垂**に謂って曰く、
「本より東都（龍城）を保ちて以て自ら全うせんと欲すれども，今事は已に洩れ，謀は設けるに及ばず。**秦主**は方に英傑を招き延く，往きて之に歸すに如かず。」
垂は曰く、
「今日之計は，此を捨てて安くに之かん！」
乃ち騎を散じて跡を滅し，南山に傍いて（中山・常山の山間部によって南す）復た鄴に還り，趙之顯原陵（趙主の石虎の盧葬の所）に隱る。俄に獵者數百騎有りて四面より而して來たり，之に抗するには則ち敵する能わず，之を逃げるには則ち路無く，為す所を知らず。會々獵者の鷹は皆な飛揚し，衆騎は散り去る。**垂**は乃ち白馬を殺して以て天を祭り，且つ從う者に盟う。**(6-204p)** 世子の**令**は**垂**に言って曰く、
「太傅は賢を忌み能を疾み，事を構えて以來，人は尤も忿恨す。今鄴城之中は，尊の處を知る莫し，嬰兒之母を思うが如く，夷、夏は之を同じくす。若し衆心に順えば，其の備え無きを襲えば，之を取るは掌を指すが如き耳。事定まる之後，弊を革め能を簡び，大いに朝政を匡し，以て**主上**を輔け，國を安んじ家を存せば，功之大なる者也。今日之便は，誠に失う可からず，願はくは騎數人を給われば，以て之を辦じるに足るべし。」
垂は曰く、
「汝之謀の如く，事成れば誠に大福と為り，成らざれば之を悔やみて何ぞ及ばん！西に奔るに如かず，以て萬全をなす可し。」
子馬奴は潛かに逃げ歸るを謀り，之を殺して而して行く。河陽に至り，津吏の禁ずる所と為り，之を斬り而して濟る。遂に洛陽より**段夫人**、世子**令**、令弟の**寶**、**農**、**隆**、兄の子の**楷**、舅の**蘭建**、郎中令の**高弼**と俱に秦に奔り，妃の**可足渾氏**（可足渾太后の妹、100 巻穆帝升平二年に見える）を鄴に留める。乙泉（宜陽県の西南、洛水の北原、河南省河洛道宜陽県、現・洛陽市宜陽県）戍主の**吳歸**は追いて闋鄉（河南省河洛道闋鄉県、現・三門峽市靈宝市）に及び，世子の**令**は之を擊ちて而して退く。
前秦［苻堅は慕容垂を大歓迎、王猛は誅殺を進言］初め，秦王の**堅**は太宰の**恪**の卒するを聞き，陰かに燕を圖る之志有り，**垂**の威名を憚り，敢えて發せず。**垂**の至るを聞くに及び，大いに喜び，郊にて迎えて，手を執りて曰く、
「天は賢傑を生じ，必ず相い與に共に大功を成さん，此くは自然之數也。要ず當に卿と共に天下を定め，成を岱宗（泰山、五岳の一）に告げ，然る後に卿を本邦に還し，世々幽州に封じ，卿をして國を去ら使むるも子為る之孝失わず，**朕**に歸するも君に事える之忠を失わず，亦た美ならず乎！」
垂は謝して曰く、
「羈旅之臣は，罪を免かるるを幸と為す。本邦之榮は，敢えて望む所に非ざるなり！」
堅は復た世子の**令**及び**慕容楷**之才を愛し，皆な厚く之を禮し，巨萬を賞賜し，進見する毎に，目を屬して之を觀る。關中の士民は素より**垂**の父子の名を聞き，皆な向かいて之を慕う。**王猛**は**堅**に言って曰く、

「**慕容垂**の父子は，譬えば龍虎の如く，馴らす可き之物に非ず，若し借りに風雲を以てせば，將に複た製す可からざらんとす，早く之を除くに如かず。」

堅は曰く、

「吾は方に英雄を收攬して以て四海を清めんとす，奈何ぞ之を殺さんや！且つ其の始めて來たるや，吾は已に誠を推して之を納れる矣。匹夫すら猶ほ言を棄てず，況んや萬乘を乎！」

乃ち**垂**を以て冠軍將軍と為し，賓徒侯に封じ，**楷**を積弩將軍と為す。

【前燕政権の腐敗】

▲［燕は高泰の登用で動揺を抑える］燕の魏尹の范陽王の**德**は素より**垂**（車騎大将軍）と善く，及び車騎從事中郎の**高泰**等は，皆な坐して官を免ぜらる。尚書右丞の**申紹**は太傅の**評**に言って曰く、

「今**吳王**は出奔し，外口は籍籍（紛々）たり，宜しく王の僚屬之賢者を徵して之を顯進すべく，粗ぼ謗りを消す可からん。」

評は曰く、

「誰か可なる者や？」

紹は曰く、

「**高泰**は其の領袖也。」

乃ち**泰**を以て尚書郎と為す。**泰**は，**瞻**（91 巻元帝太興二年）之從子、**紹**は，**胤**之兄也。

前秦［梁琛は苻堅の侵攻を恐れ、燕は備えず］秦は**梁琛**を留めること月餘にして，乃ち遣り歸す。**琛**は程を兼ねて（倍道して、急いで、行者は二驛を以て程と為す）而して進み，鄴に至る比おい，吳王の**垂**は已に秦に奔る。

琛は太傅の**評**に言って曰く、

「秦人は日々に軍旅を閱し，多く糧を陝東に聚める。**琛**を以て之を觀るに，和を為すは必ず久しく能わず。今**吳王**は又た往きて之に歸し，秦は必ず燕を窺う之謀有らん，宜しく早に之が備えを為すべし。」

評は曰く、

「秦は豈に肯て叛臣を受けて而して和好を敗らん哉！」

琛は曰く、

「今二國は中原に分據し，常に相い呑む之志有り。**桓溫**之入寇は，彼が計を以て相い救う，燕を愛するに非ざる也。若し燕に釁有れば，彼は豈に其の本の志を忘れる哉！」

評は曰く、

「**秦主**は何如なる人ぞや？」

琛は曰く、

「明にして而して善く斷ず。」

王猛を問い，曰く、

「名は虛しく得ず。」

評は皆な以て然りと為さず。**琛**は又た以て燕主の**暐**に告げ，**暐**も亦た之を然りとせず。以て**皇甫真**に告げ，**真**は深く之を憂い，上疏して言う、

「**苻堅**は聘問するに相い尋ぐと雖も，然るに實は上國を窺う之心有り，能く德義を慕い樂しむに非ず，久要（久約）を忘れるに非ざる也。前（東晋進攻時の前秦の救援）に兵を洛川に出し，及び使者は繼いで至り，國之險易虛實は，彼は皆な之を得る矣。今吳王の**垂**は又た往きて之に從い，其の謀主と為る。伍員之禍い（伍

員は楚を去り、呉に兵を借りて楚に復讐した例）は，備えざる可からず。洛陽、太原、壺關は，皆な宜しく將を選んで兵を益し，以て未然を防ぐべし。」

暐は太傅の**評**を召して之を謀り，**評**は曰く、

「秦國は小さく力は弱く，我を恃んで援を為す。且つ**苻堅**は善道を庶幾い，終に肯えて叛臣之言を納れて，二國之好みを絕たざらん。宜しく輕々しく自ら驚擾して以て寇心を啟くべからず。」

卒に備えを為さず。（苻堅はまだ未だに隣に交わる能わざれども、猶ほ善道を庶幾うの意味）

前［高泰は前秦に軍威を示すを求めるも、評は奢を以て示す］▲秦は黄門郎の**石越**を遣わして燕に聘し，太傅の**評**は之に示すに奢を以てし，以て燕之富の盛んなるを誇らんと欲す。**高泰**及び太傅の參軍の河間の**劉靖**は**評**に言って曰く、

「**越**は言は誕にして而して視は遠し，好を求むに非ざる也，乃ち釁を觀る也。宜しく兵を耀かして以て之に示し，用て其の謀を折るべし。今乃ち之を示すに奢を以てせば，益々其の輕んずる所と為る矣。」

評は從わず。**泰**は遂に病いと謝して歸る。

▲［慕容評の貪婪、申紹の上疏は省みず］是の時太后の**可足渾氏**は國政を侵橈（侵し曲げる）し，太傅の**評**は貪昧にして厭く無く，貨賂は上流し，官は才舉に非ず，群下は怨憤す。尚書左丞の**申紹**は上疏して，以て為す、

「守宰（地方長官）者，治を致す之本なり。今之守宰は，率ね其の人に非ず，或は武人にして行伍（兵士が隊を組んで整列したその一列。隊伍）より出でて，或は貴戚にして綺紈（貴人の衣服の美称）に生長し，既に鄉曲（地域）之選に非ず，又た朝廷之職を更ず（官吏経験もない）。之に加えて黜陟は法無く，貪惰する者は刑罰之懼れ無く，清修する者は旌賞（善行、功労を表彰し誉め称える）之勸め無し。是れを以て百姓は困弊し，寇盜は充斥（充満）し，綱は頽れ紀は紊れ，相い糾攝（糾督攝録、監督追求）する莫し。又た官吏は猥多く，前世を逾え，公私は紛然（ゴタゴタ）として，煩擾（煩わしいほど乱れる）に勝えず。大燕の戶口は，數々二寇（秦・晉）を兼ね，弓馬之勁きは，四方に及ぶ莫し。而るに比者戰えば則ち屢々（敗）北し，皆な守宰の賦調は平かならず，侵漁は已む無く，行留は俱に窘み，(6-206p) 肯えて命を致す莫きに由る故也。後宮之女は四千餘人あり，僮侍と廝役（雜役、召使い）は尚ほ其の外に在り，一日之費えは，厥の直いは萬金。士民は風を承け，競いて奢靡を為す。彼の秦、呉は僻僭（秦は僭号し呉は一隅に僻在）し，猶ほ能く所部を調治し，兼併之心有り，而るに我が上下は因循（因習に従う）して，日々其の序を失う。我之修めざるは，彼之願い也。謂うに宜しく守宰を精しく擇び，官を併せて職を省き，兵家を存恤（哀れみ労う）し，公私をして兩つながら遂げ使め，浮靡を節抑し，用度を愛惜し，賞は必ず功に當て，罰は必ず罪に當てるべし。此くの如くならば，則ち（桓）**溫**、（王）**猛**は梟す可く，二方は取る可し，豈に特に境を保ち民を安んじ而して已む哉！又，索頭（辮髪の呼称）の什翼犍は疲病昏悖なるも，貢御（貢進）の乏しきと雖も，患と為すに能う無し。而るに兵を勞らせ遠くを戍る（燕は雲中に進駐し代に備える）は，損有りて益無し。若かず、幷土に移し，西河を控制し，南に壺關を堅め，北に晉陽を重んじ，西寇來らば則ち拒ぎ守り，過ぎれば則ち後を斷つべし，猶ほ孤城を戍り無用之地を守るに愈る也。」

疏は奏されるも，省みられず。

【前秦は違約の前燕を攻める】

■辛丑（２５日），丞相の**昱**は大司馬の**溫**と塗中（安徽省淮泗道全椒県・江蘇省金陵道六合県、現・滁州市全椒県・南京市六合区）に會し，以て後舉を謀る。**溫**の世子の**熙**を以て豫州刺史と為し、節を假す。

前秦［燕は領土割譲を拒否、苻堅は洛陽攻略へ派兵］初め，燕人は虎牢以西を割きて秦に賂するを許す。晉兵は既に退き，燕人は之を悔い，秦人に謂って曰く、

「行人（使者）は辭を失う（言い間違い）。國有り家有る者は，災いを分け患いを救うは，理之常也。」

秦王の**堅**は大いに怒り，輔國將軍の**王猛**、建威將軍の**梁成**、洛州刺史の**鄧羌**を遣わして歩騎三萬を帥いて燕を伐たしむ。十二月，進みて洛陽を攻める。

■［桓溫は廣陵城に移転、孫盛の晉春秋編纂と、言論弾圧］大司馬の**溫**は徐、兗州の民を發して廣陵城を築き，徙りて之に鎮す。時に征役は既に頻に，之に加えるに疫癘し，死者は什に四五となり，百姓は嗟怨す。秘書監の太原の**孫盛**は《晉春秋》を作り，時事を直書す。大司馬の**溫**は之を見，怒り，**盛**の子に謂って曰く、

「枋頭（前燕に破れた地、現・河南省安陽市鶴壁市浚県）は誠に利を失うを為し，何ぞ乃ち尊君（晉人は人の子の父親を呼ぶ）の言う所の如しに至るや！若し此の史が遂に行なわれれば，自ら是れ君の門戸の事に關せん！」（一族の族滅を示唆）

其の子は遽（にわか）に拜謝し，之を改めるを請う。時に**盛**は年老いて家に居り，性は方嚴にして，軌度有り，子孫は斑白（白髪交じりの年齢）と雖も，之を待つに愈々峻なり。是に至り諸子は乃ち共に號泣し稽顙し，百口（一族）の為に切に計るを請う。**盛**は大いに怒り，許さず，諸子は遂に私に之を改む。**盛**は先ず已に別本を寫し，之を外國に傳える。**孝武帝**が異書を購求するに及び，之を遼東人より得て，見本（現存の本）と同じならず，(6-207p) 遂に兩つながら之を存す。

海西公下太和五年（庚午，３７０年）

▲春，正月，己亥（２４日），**袁真**は梁國內史の沛郡の**朱憲**及び弟の汝南內史の**斌**が陰かに大司馬の**溫**に通じるを以て，之を殺す。

前秦［洛陽は前秦に降伏］秦王の**猛**は燕の荊州刺史（洛陽に治す）の武威の**王楽**に書を遣わして曰く、

「國家は今已に成皐之險（現・鄭州市滎陽市汜水鎮西北）を塞ぎ，盟津之路を杜（ふさ）ぎ，大駕は虎旅百萬，軹關より鄴都を取り，金墉の窮戍は，外に救援無く，城下之師は，將軍の監みる所，豈に三百の弊卒は能く支える所なる也！」

楽は懼れ，洛陽を以て降り，**猛**は師を陳じて之を受ける。燕の衛大將軍の樂安王の**臧**は新樂（河南省河北道新鄉県、現・新鄉市新鄉県）に城きずき，秦の兵を石門に破り，秦將の**楊猛**を執る。

前秦［慕容令は王猛の反間の計に遇い、燕に逃亡］**王猛**之長安を發する也，**慕容令**を請いて其の軍事に參ぜしめ，以て鄉導と為す。將に行かんとし，**慕容垂**に造（いた）りて飲酒し，從容として**垂**に謂って曰く、

「今當に遠く別るべく，卿は何を以て我に贈り，我をして物を睹（み）て人を思わ使めん？」

垂は佩刀を脫して之を贈る。**猛**は洛陽に至り，**垂**が親しむ所の**金熙**に賂し，詐りて**垂**の使者と為して，**令**に謂って曰わ使む、

「吾が父子は此に來たるは，以て死を逃れん也。今**王猛**は人を疾むこと仇の如く，讒毀（ざんき）すること日々に深し。**秦王**は外に相い厚善すると雖も，其の心は知り難し。丈夫は死を逃れんとし而して卒に免れず，將に天下の笑いと為らんとす。吾は聞く東朝は比來始めて更に悔悟し，**主**（燕主慕容暐）、**后**（可足渾后）は相い尤（とが）むと。吾は今は東に還り，故に遣わして汝に告げしむ。吾は已に行けり矣，便ち速かに發す可し。」

令は之を疑い，躊躇して終日，又た審覆す可からず。乃ち舊騎（燕以来の腹心）を將いて，詐りて獵に出でると為し，遂に樂安王の**臧**の石門に奔る。**猛**は**令**の叛狀を表し，**垂**は懼れ而して出でて走り，藍田に及び，追騎の獲る所と為る。秦王の**堅**は東堂に引見し，之を勞わりて曰く、

「卿の家國は和を失い，身を委ねて**朕**に投じる。賢子は心に本を忘れず，猶ほ首丘（孤独死するや丘の首を向ける）を懷い，亦た各々其の志なり，深く咎めるに足らず。然れども燕之將に亡びんとするは，**令**の能く存する所に非ず，其の徒らに虎口に入るを惜しむ耳。且つ父子兄弟は，罪は相い及ばす，卿は何んぞ過ぎて懼れと為し而して狼狽して是くが如し乎！」

之を待つに舊の如し。燕人は**令**が叛して而して復た還り，其の父は秦の厚くする所と為るを以て，**令**が反間を為すと疑い，之を沙城に徙す，龍都の東北六百裡に在り。

★［王猛の判断の誤りを苻堅がよく修正］臣**光**は曰く、

「昔周は**微子**を得て而して商の命を革め，秦は**由余**を得て而して西戎に霸たり，吳は**伍員**を得て而して強き楚に克ち，漢は**陳平**を得て而して**項籍**を誅し，魏は**許攸**を得て而して**袁紹**を破る。(6-208p) 彼の敵國之材臣は，來たりて己が用と為すは，進取之良資也。**王猛**は**慕容垂**之心は久しく而して信じ難きを知り，獨り燕の尚ほ未だ滅びざるを念わず，**垂**は材高く功盛んなるを以て，罪無くして疑わ見，窮困して秦に歸し，未だ異心有らず，遽に猜忌を以て之を殺せば，是は燕を助けて無道を為し而して來者之門を塞ぐ也，如何んぞ其れ可なる哉！故に秦王の**堅**は之を禮して以て燕の望を收め，之に親しみて以て燕の情を盡くし，之を寵して以て燕の衆を傾け，之を信じて以て燕の心を結び，未だ過まつと為さず矣。**猛**は何ぞ**垂**を殺すに汲汲として，乃ち市井の鬻賣之行を為すに至るや，**猛**は其の寵を嫉みて而して之を讒する者の如く有り，豈に雅德の君子の宜しく為す所哉！」

【前秦は前燕を滅ぼす】

前秦▲［滎陽・洛陽の攻防］樂安王の**臧**は進みて滎陽に屯し，**王猛**は建威將軍の**梁成**、洛州刺史の**鄧羌**（陝城に治す）を遣わして擊ちて之を走らす。**羌**を留めて金墉に鎮ぜしめ，輔國（王猛）の司馬の**桓寅**を以て弘農太守と為し，**羌**に代わりて陝城に戍せしめて而して還る。

前秦［苻堅は王猛を信頼］秦王の**堅**は**王猛**を以て司徒と為し，尚書事を錄さしめ，平陽の郡侯に封じる。**猛**は固辭して曰く、

「今燕、吳は未だ平かならず，戎車は方に駕し，而して始めて一城を得，即ち三事之賞（三公）を受けるには，若し二寇を克殄すれば，將に何を以てか之を加えん！」

堅は曰く、

「苟しくも暫く朕の心を抑えざれば，何を以てか卿の謙光之美を顯わさん！已に有司に詔して權に守る所を聽す。封爵して庸（功勞）に酬いる，其れ勉めて**朕**の命に從うべし！」

▲［燕の袁真の後継、袁瑾］二月，癸酉（２８日），**袁真**は卒す。陳郡太守の**朱輔**は**真**の子の**瑾**を立てて建威將軍，豫州刺史と為し，以て壽春を保たしめ，其の子の**乾之**及び司馬の**龔亮**を遣わして鄴に如きて命を請わしむ。燕人は**瑾**を以て揚州刺史と為し，**輔**を荊州刺史と為す。

前秦三月，秦王の**堅**は吏部尚書の**權翼**を以て尚書右僕射と為す。**夏，四月**，復た**王猛**を以て司徒と為し，尚書事を錄さしむ。**猛**は固辭し，乃ち止む。

前秦▲■［東晉は壽春に勝つ］燕、秦は皆な兵を遣わして**袁瑾**を助ける。，大司馬の**溫**は督護の**竺瑤**等を遣わして之を御ぐ。燕兵は先ず至り，**瑤**等は與に武丘（河南省開封道沈邸県、現・周口市沈丘県）に戰いて，之を

破る。南頓（恵帝は汝南郡を分ける）太守の**桓石虔**は其の（壽春の）南城に克つ。**石虔**は，**溫**之弟の子也。

前秦[苻堅は王猛に燕を伐たしむ]秦王の**堅**は復た**王猛**を遣わして鎮南將軍の**楊安**等十將と歩騎六萬を督し以て燕を伐たしむ。

前秦［慕容令は沙城を脱するも誅殺される］**慕容令**は自ら終に免かるるを得ざるを度り，密かに兵を起こさんと謀る。沙城の中に謫戍の士數千人あり，**令**は皆な厚く之を撫でる。五月，庚午（５７日?），**令**は牙門の**孟嫣**を殺す。城大の**涉圭**は懼れ，自ら效さんと請う。**令**は之を信じ，引いて左右に置く。遂に謫戍の士を帥いて東に威德城（宇文涉夜干の居城）を襲い，城郎の**慕容倉**を殺し，城に據りて部署し，人を遣わして東西の諸戍を招き，翕然として皆な之に應じる。(6-209p) 鎮東將軍の勃海王の**亮**は龍城に鎮し，**令**は將に之を襲わんとす。其の弟の**麟**は以て**亮**に告げ，**亮**は城を閉じて拒み守る。癸酉（６０日?），**涉圭**は侍直（入侍して宿直する者）に因りて**令**を擊ち，**令**は單馬にて走り，其の黨は皆な潰ゆ。**涉圭**は**令**を追いて薛黎澤に至り，擒にして而して之を殺し，龍城に詣りて**亮**に白す。**亮**は之が為に**涉圭**を誅し，**令**の屍を收めて而して之を葬す。

前秦［王猛発進］六月，乙卯（１２日），秦王の**堅**は**王猛**を灞上（鴻門の会の所在地、現・西安市臨潼区）に送り，曰く、

「今卿に委ねるに關東之任を以てし，當に先ず壺關を破り，上黨を平らげ，長驅して鄴を取り，所謂『疾雷は耳を掩うに及ばず』。吾は當に親ら萬衆を督して，卿に繼ぎて星發（星を戴きて出発）し，舟車糧運は，水陸俱に進むべし，卿は以て後慮と為す勿かれ也。」

猛は曰く、

「臣は威靈に杖り，成算を奉じ，殘胡を蕩平するに，風の如く葉を掃い，願わくは鑾輿を煩わし親ら塵霧を犯さざらん，但だ願わくは速かに所司に敕して鮮卑之所を部置すべし。」（親征を煩わすまでもなく、支配体制を作るだけでいいと）

堅は大いに悦ぶ。

■秋，七月，癸酉（１日）朔，日之を食する有り。

前秦▲［王猛は壺關を落とし、燕人は震える］秦の**王猛**は壺關（山西省冀寧道長子県、現・長治市壺関県）を攻め，**楊安**は晉陽（山西省太原市晋源県、現・太原市晋源区）を攻める。八月，燕主の**暐**は太傅の上庸王の**評**に命じて中外の精兵三十萬を將いて以て秦を拒ましむ。**暐**は秦寇を以て憂いと為し，散騎侍郎の**李鳳**、黄門侍郎の**梁琛**、中書侍郎の**樂嵩**を召して問いて曰く、

「秦兵の衆寡は何如？今大軍は既に出でて，秦は能く戰う乎？」

鳳は曰く、

「秦は國小さく兵は弱く，王師之敵に非ず。**景略**（王猛の字）は常才なり，又た太傅（評）之比に非ず，憂うるに足らざる也。」

琛、**嵩**は曰く、

「勝敗は謀に在り，衆寡に在らず。秦は遠來して寇を為す，安んぞ肯えて戰わざらん！且つ吾は當に謀を用いて以て勝ちを求めるべし，豈に其の戰わざるを冀いて而して已む可き乎！」

暐は悦ばず。**王猛**は壺關に克ち，上黨太守の南安王の**越**を執り，過ぐる所の郡縣は，皆な風を望んで降に附き，燕人は大いに震える。

▲［申胤は燕が亡びてもまた再建できるという］黄門侍郎の**封孚**は司徒長史の**申胤**に問いて曰く、

「事は將に何如や？」

胤は歎じて曰く、

「鄴は必ず亡びん矣，吾が屬は今茲(ここ)に將に秦の虜と為らんとす。然れども越は歳を得て而して吳は之を伐つ（左傳昭公 32 年に吳が越を伐つとき、吳の史墨曰く、40 年に及ばすして越は其れ吳を有たんが、越は歳を得たるに、吳これを伐つ、必ず其の凶を受けんと。歳星の在る所は、其の国福を受ける、これを討つは凶なるという也），卒に其の禍を受けたり。今福德（歳星が燕に有利）は燕に在り，秦は志を得ると雖も，而るに燕之復た建つは，一紀に過ぎざる耳。」

■［桓溫は壽春の袁瑾を包囲］大司馬の**溫**は廣陵より衆二萬を帥いて**袁瑾**を討つ。襄城太守の**劉波**を以て淮南內史と為し，五千人を將いて石頭に鎮せしむ。**波**は，**隗**（元帝の末に隗は王敦の乱で後趙に逃げる）之孫也。癸丑（１１日），**溫**は**瑾**を壽春に敗り，遂に之を圍む。燕の左衛將軍の**孟高**は騎兵を將いて**瑾**を救わんとし，淮北に至り，未だ渡らず，會々秦は燕を伐ち，燕は**高**を召して還らしむ。(6-210p)

■［益州などの反乱連続］廣漢（現・四川省德陽市広漢市）の妖賊の**李弘**は，漢の歸義侯の**勢**之子を詐稱し，衆萬餘人を聚め，自ら聖王と稱し，年號を鳳凰とす。隴西人の**李高**は，成主の**雄**之子を詐稱し，攻めて涪城を破り，梁州刺史の**楊亮**を逐う。九月，益州刺史の**周楚**は子の**瓊**を遣わして**高**を討たしめ，又た**瓊**の子の梓潼太守の**颺**をして**弘**を討た使め，皆な之を平らげる。

前秦［王猛は晉陽に地下道を掘りて降し、潞川で慕容評と対峙］秦の**楊安**は晉陽を攻め，晉陽は兵多く糧は足り，之久しく未だ下らず。**王猛**は屯騎校尉の**苟萇**を留めて壺關に戍せしめ，兵を引いて**安**を助けて晉陽を攻め。地道を為(つく)り，虎牙將軍の**張蚝**をして壯士數百を帥いて潛かに城中に入ら使め，大呼して關を斬り，秦兵を納める。辛巳（１０日），**猛**、**安**は晉陽に入り，燕の并州刺史の東海王の**莊**を執る。太傅の**評**は**猛**を畏れ，敢えて進まず，潞川（川の名、濁漳水、山西省冀寧道潞城県の北、現・長治市潞城区）に屯す。冬，十月，辛亥（１０日），**猛**は將軍の武都の**毛當**を留めて晉陽に戍せしめ，兵を潞川に進め，**慕容評**と相い持つ。

前秦［鄧羌は徐成を命を懸けて助命］壬戌（２１日），**猛**は將軍の**徐成**を遣わして燕軍の形要（形勢観望）を覘さしめ，期するに日中を以てす。昏に及び而して返り，**猛**は怒り，將に之を斬らんとす。**鄧羌**は之に請いて曰く、

「今賊は衆く我は寡なし，詰朝(明日の朝)將に戰わんとす。**成**は，大將也，宜しく且(しば)らく之を宥すべし。」

猛は曰く、

「若し**成**を殺さざれば，軍法は立たず。」

羌は固く請いて曰く、

「**成**は，**羌**之郡將（鄧羌の本郡の太守）也，期を違えて應に斬られると雖も，**羌**は願わくは**成**と與に戰いを效(いた)して以て之を贖わん。」

猛は許さず。**羌**は怒り，營に還り，嚴鼓して兵を勒し，將に**猛**を攻めんとす。**猛**は其の故を問い，**羌**は曰く、

「詔を受けて遠く賊を討つ。今近くに賊有り，自ら相い殺し，先ず之を除かんと欲す！」

猛は謂(おも)えらく**羌**は義に而して勇有り，使いして之に語りて曰く、

「將軍は止めよ，吾は今之を赦さん。」

成は既に免かれ，**羌**は**猛**に詣りて謝す。**猛**は其の手を執りて曰く、

「吾は將軍を試した耳，將軍は郡將に於いて尚ほ爾(しか)り，況んや國家を乎！吾は復た賊を憂えず矣！」

▲前秦［戰場でも私服を肥やす慕容評は敵にあらず］太傅の**評**は**猛**の懸軍が深く入るを以て，持久を以

て之を制せんと欲す。**評**の人と為りは貪鄙（貪欲でけちくさい）にして，山泉を鄴固し，樵及び水を鬻ぎ（軍士に山で薪を取り泉で水を汲ませ、それを売る），錢帛を積むこと丘陵の如し。士卒は怨憤し，鬥志有る莫し。**猛**は之を聞き，笑いて曰く、

「**慕容評**は真に奴才なり，億兆之衆と雖も畏れるに足らず，況んや數十萬を乎！吾は今茲に之を破るは必なり矣。」

乃ち游撃將軍の**郭慶**を遣わして騎五千を帥いて，夜間道より**評**の營の後ろに出でて，**評**の輜重を焼き，火は鄴中にも見える（潞川は地形高く、望見可能）。燕主の**暐**は懼れ，侍中の**蘭伊**を遣わして**評**を讓めて曰く、

「王は，**高祖**（慕容廆）之子也，當に宗廟社稷を以て憂いと為すべし，奈何して戰士を撫せずして而して樵水を榷賣（専売）し，專ら貨殖を以て心と為す乎！府庫之積（蓄積）は，**朕**は王と之を共にせん，何の貧を憂えんや！若し賊兵が遂に進み，家國が喪亡すれば，(6-211p) 王は錢帛を持ちて安くの所に之を置かんと欲するや！」

乃ち命じて悉く其の錢帛を以て之を軍士に散ぜしめ，且つ趨して戰わ使む。**評**は大いに懼れ，遣使して**猛**に戰うを請う。

前秦［王猛の志気鼓舞に勇躍す］甲子（２３日），**猛**は渭源（渭水は潞県に出ず、一説に潞源の誤）に陳し而して之に誓いて曰く、

「**王景略**は國の厚恩を受け，任は内外を兼ね，今諸君と與に深く賊地に入り，當に力を竭くして死を致し，進む有りて退く無く，共に大功を立て，以て國家に報じん。爵を明君之朝に受け，稱を父母之室に觴をあげ（賞を受けて帰り、酒を挙げて父母の壽を為す），亦た美しからず乎！」

衆は皆な踴躍し，釜を破り糧を棄て，大呼して競いて進む。

前秦［鄧羌は司隷校尉を求め、燕に大勝す］**猛**は燕兵之衆を望み，**鄧羌**に謂って曰く、

「今日之事は，將軍に非ざれば勍敵を破る能わず。成敗之機は，茲の一舉に在り，將軍は之を勉めよ！」

羌は曰く、

「若し能く司隷（司隷校尉、首都圏長官を要求）を以て與さ見る者，公は以て憂いと為す勿かれ。」

猛は曰く、

「此れは吾の及ぶ所に非ざる也，必ず安定太守（秦の雍州刺史は安定に治す）、萬戸侯をを以て相い處すべし。」

羌は悦ばずして而して退く。俄に而して兵は交わり，**猛**は**羌**を召し，**羌**は寢ねて應じず。**猛**は馳せて就きて之を許し，**羌**は乃ち大いに帳中に飲み，**張蚝**、**徐成**等と與に馬に跨りて矛を運らし，馳せて燕の陳に赴く。出入すること數四，旁若無人にして，殺傷する所は數百。日中に及び，燕兵は大敗し，俘斬は五萬餘人，勝ちに乘りて追撃し，殺す及び降る所の者は又た十萬餘人にして，**評**は單騎にして走りて鄴に還る。

★[根も葉もないとは?]**崔鴻**（478-525、北魏の官僚・歴史家、『十六国春秋』の編著者）は曰く、

「**鄧羌**は郡將を請うに以て法を撓るは，私に徇う也。兵を勒して**王猛**を攻めんと欲すは，上を無にする也。戰に臨みて豫め司隷を求めるは，君に邀う也。此の三つの者有り，罪は孰れか焉より大ならん！**猛**は能く其の短なる所を容れ，其の長じる所を收め，猛虎を馴らし，悍馬を馭するが若し，以て大功を成す。《詩》に雲う、

「葑を采り菲を采る，下體を以てする無かれ。」（詩経谷風の辞。葑は燕、菲は菜の類。葉も根も食べれるが、根は時に食困難。根が食えないからと葉まで食わないのはどうか。根も葉もないの語源?なら、意味が変わっている）

猛之謂い矣。

前秦［王莽は燕の首都鄴を圍んで苻堅親征を待つ］秦兵は長驅して而して東し，丁卯（２６日），鄴を圍む。**猛**は上疏して稱す、

「臣は甲子之日（周の武王が殷の紂を討った日）を以て，大いに丑類を殲（滅）す。陛下の仁愛之志に順い，六州の士庶をして，主を易えるを覺らざら使め，迷いを守り命に違うに非ざるより，一に害する所無し。」

秦王の**堅**は之に報じて曰く、

「將軍は役は時（三月を一時とす）を逾えず，而して元惡は克く擧がり，勳は前古に高し。**朕**は今親ら六軍を帥いて，星言電赴（早く駕して星を見、疾く行く）せん。將軍は其れ將士を休養し，以って**朕**の至るを待ち，然る後に之を取らん。」

前秦［慕容恪の遺愛残るに王猛驚く］**猛**之未だ至らざる也，鄴の旁らでは剽劫（掠め獲る）は公行（横行）し，**猛**の至るに及び，遠近は貼然（静かに落ち着く）とす。號令は嚴明にして，軍に私に犯す無く，法は簡にして政は寬く，燕の民は各々其の業を安んじ，更に相い謂って曰く：―、

「圖らず今日復た太原王（慕容恪）を見るとは！」(6-212p)

猛は之を聞き，歎じて曰く、

「**慕容玄恭**は信（まこと）に奇士也，古之遺愛と謂う可し矣！」

太牢を設けて以て之を祭る。

前秦［王猛は安陽に苻堅を迎える］十一月，秦王の**堅**は**李威**を留めて**太子**を輔けて長安を守らしめ，陽平公の**融**を洛陽に鎮ぜしめ，自ら精鋭十萬を帥いて鄴に赴き，七日而して安陽（河南省河北道安陽県、現・安陽市）に至り，祖父の時の故老（苻洪父子は先に枋頭に屯し、その故老はまだ生存していて苻堅を迎える）を宴す。**猛**は潜かに安陽に如き**堅**に謁し，**堅**は曰く、

「昔周の**亞夫**は漢の**文帝**を迎えず（15 巻漢文帝後六年にに見える），今將軍は敵に臨みて而して軍を棄てるは，何ぞ也？」

猛は曰く、

「**亞夫**は人主を前卻（進退）して名を求める，臣は竊かに之を少とす。且つ臣は**陛下**の威靈を奉り，亡びるに垂々とする之虜を擊つは，譬えば釜中之魚の如く，何ぞ慮るに足る也！監國（太子が長安を守る事）の沖幼なるに，鸞駕は遠く臨み，脫（もし）不虞有れば，之を悔いて何ぞ及ばん！**陛下**は臣の灞上之言を忘れる邪！」

前秦▲［鄴の陥落、燕主逃亡］初め，燕の宜都王の**桓**は衆萬餘を帥いて沙亭（陽平の元城県にあり、直隷省大名道大名県、現・河北省邯鄲市大名県）に屯し，太傅の**評**の後繼と為す，**評**の敗れるを聞き，兵を引いて內黃（魏郡に属す県、河南省河北道内黄県、現・安陽市内黄県）に屯す。**堅**は**鄧羌**をして信都を攻め使む。丁丑（６日），**桓**は鮮卑五千を帥いて龍城に奔る。戊寅（７日），燕の散騎侍郎の**餘蔚**（扶余王の子）は扶餘、高句麗及び上黨の質子五百餘人を帥いて，夜，鄴の北門を開き，秦兵を納れ，燕主の**暐**は上庸王の**評**、樂安王の**臧**、定襄王の**淵**、左衛將軍の**孟高**、殿中將軍の**艾朗**等と龍城に奔る。辛巳（１０日），秦王の**堅**は鄴宮に入る。

前秦［高弼は慕容垂に期待して激励］**慕容垂**は燕の公卿大夫及び故の時の僚吏を見，慍色有り。**高弼**（垂と一緒に秦に亡命）は**垂**に言って曰く、

「**大王**は祖宗積累之資に憑（よ）り，英傑の高世之略を負い，迍阨（艱難）に遭值し，外邦に棲集する。今家國の傾覆すると雖も，安んぞ其の興運之始めと為さざるを知らん邪！愚は謂（おも）うには國之舊人は，宜しく江海之量を恢（ひろ）くし，以て其の心を慰め結ぶ有り，以て覆簣（山を造るに一簣の土を覆して積む）之基いを立て，九仞之

功を成すべし，奈何して一怒を以て之を捐てんや？愚は竊かに**大王**の為に取らざる也！」
垂は悦び，之に従う。
▲前秦［孟高の奮闘死と慕容暐の捕縛］燕主の**暐**之鄴を出る也，衛士は猶ほ千餘騎あり，既に城を出，皆な散り，惟だ十餘騎は従い行く。秦王の**堅**は游撃将軍の**郭慶**をして之を追わ使む。時に道路は艱難にして，**孟高**は**暐**を扶侍し，二王（樂安王の臧、定襄王の淵）を經護し，其の勤瘁を極め，又た所在に盗に遇い，轉斗して而して前む。數日にして，行きて福祿に至り，塚に依り解息（鞍を解き馬を休める）す，盗二十餘人猝かに至り，皆な弓矢を挟み，**高**は刀を持ちて與に戦い，殺傷すること數人。**高**は力極まり（力尽きる），自ら必ず死せんと度り，乃ち直ちに前んで一賊を抱き，地に頓撃して，大呼して曰く、
「男兒は窮せり矣！」
餘の賊は旁より**高**を射て，之を殺す。**艾朗**は**高**の獨り戦うを見て，亦た還りて賊に趨き，並んで死す。**暐**は馬を失い歩走し，(6-213p) **郭慶**は追いて高陽に及び，部將の**巨武**は將に之を縛せんとし，**暐**は曰く、
「汝は何ぞ小人にして，敢えて**天子**を縛するや！」
武は曰く、
「我は詔を受けて賊を追う，何ぞ**天子**と謂うや！」
執りて以て秦王の**堅**に詣る。**堅**は其の降らずして而して走る之狀を詰め，對えて曰く、
「狐は死んで丘に首むける，歸りて先人の墳墓に死せんと欲す耳。」
堅は哀れみて而して之を釋し，宮に還ら令めて，文武を帥いて出で降る（前燕は 19 年にして滅ぶ）。**暐**は**孟高**、**艾朗**之忠を**堅**に稱し，**堅**は命じて厚く斂葬を加え，其の子を拝して郎中と為す。

▲［慕容評は高句麗に逃亡するも、送還される］**郭慶**は進みて龍城に至り，太傅の**評**は高句麗に奔る。高句麗は**評**を執り，秦に送る。宜都王の**桓**は鎮東將軍の勃海王の**亮**を殺し，其の衆を併せ，遼東に奔る。遼東太守の**韓稠**は，先に已に秦に降り，**桓**は至るも，入るを得ず，之を攻めるも，克たず。**郭慶**は將軍の**朱嶷**を遣わして之を撃ち，**桓**は衆を棄てて單り走り，**嶷**は獲りて而して之を殺す。

【前秦は前燕皇帝・支配者層を温存】

前秦［前秦は華北を統一し、大赦す］諸州の牧守及び六夷の渠帥は盡く秦に降り，凡そ郡百五十七，戸二百四十六萬，口九百九十九萬を得たり。燕の宮人、珍寶を以て分けて將士に賜わる。下詔して大赦して曰く、
「**朕**は寡薄（徳寡にして才薄く）を以て，猥りに休命（休美なる天命）を承け，遠くを懐けるに徳を以てし，四維（四囲）を柔服する能わず，戎車をして屢々駕し，斯の民を害する有ら使むるに至り，百姓之過なりと雖も，然るに亦た**朕**之罪也。其れ天下に大赦し，之と更始するべし。」
前秦［梁琛と苻堅の燕滅亡についての論議］初め，**梁琛**之秦に使いする也，侍輦（燕の置く官）の**苟純**を以て副と為す。**琛**は應對する毎に，先ず**純**に告げず。**純**は之を恨み，歸りて，燕主の**暐**に謂って曰く、
「**琛**は長安に在り，**王猛**と甚だ親善し，疑うに異謀有らん。」
琛は又た數々秦王の**堅**及び**王猛**之美を稱し，且つ言う、
「秦は將に師を興こさんとす，宜しく之が備えを為すべし。」
已に而して秦は果たして燕を伐つは，皆な**琛**の言の如し，**暐**は乃ち**琛**の其の情を知るを疑う。**慕容評**が敗れるに及び，遂に**琛**を収めて獄に繋ぐ。秦王の**堅**は鄴に入り而して之を釋し，中書著作郎に除して，引見

し，之に謂って曰く、
「卿は昔上庸王、呉王は皆な将相の奇材なりと言い，何為れぞ畫を謀る能わずして，自ら國を亡ぼさ使むや？」
對えて曰く、
「天命の廢興は，豈に二人の能く移す所なる也！」
堅は曰く、
「卿は幾を見て而して作(な)す能わず，燕の美を虚稱し，忠なれども自ら防がず，返りて身の禍いと為るは，智と謂う可けん乎？」
對えて曰く、
「臣は聞く『幾者(は)動之微（易の繫辭傳），吉兇之先ず見る者也。』臣が愚闇の如きは，實に及ばざる所なり。然れども臣と為りて忠に如くは莫し，子と為りて孝に如くは莫し，一至之心有る者に非ざるよりは，能く忠孝之始終を保つ莫し。是を以て古之烈士は，危きに臨むも改めず，死を見て避けず，以て君親に徇じる。彼の幾を知る者は，心は安危に達し，身は去就を擇び，家國を顧みず，臣は就使(たとえ)之を知れども，尚ほ為すに忍びず，況んや及ぶ所に非ざる邪！」
前秦［**堅は悦綰之忠を認める**］**堅**は**悦綰**之忠（前巻三年にあり、私有民の禁止の制度）を聞き，見るに及ばざるを恨み，其の子を拜して郎中と為す。（公地公民制の走りであり、その後北朝から倭国に及ぶ）
前秦［**前秦の論功行賞**］**堅**は**王猛**を以て使持節、都督關東六州諸軍事、車騎大將軍、開府儀同三司、冀州牧と為し，（6-214p）鄴に鎮ぜしめ，進めて清河郡侯に爵し，悉く**慕容評**の第中之物を以て之に賜わる。**楊安**に爵の博平縣侯を賜る。**鄧羌**を以て使持節、征虜將軍、安定太守と為し，爵の真定郡侯を賜る。**郭慶**を持節、都督幽州諸軍事、幽州刺史と為し，薊に鎮ぜしめ，爵の襄城侯を賜る。其の餘の將士は封賞して各々差有り。
前秦［**関東の支配体制と諸州の循行**］**堅**は京兆の**韋鐘**を以て魏郡太守（燕は京兆尹としていた）と為し，**彭豹**を陽平太守（元京兆尹の輔郡）と為す。其の餘の州縣牧、守、令、長は，皆な舊に因り（支配地の動揺を抑える為に再任）而して之を授ける。燕の常山太守の**申紹**を以て散騎侍郎と為し，之をして散騎侍郎の京兆の**韋儒**と俱に繡衣使者（燕人と秦人を俱に用いる配慮）と為し，關東の州郡を循行し，風俗を觀省し，農桑を勸課し，窮困を振恤し，死亡を收葬し，節行を旌顯し，燕の政の民に便ならざる者有れば，皆な變じて之を除か使む。
前秦［**慕容暐一族と鮮卑を長安に移す**］十二月，秦王の堅は**慕容暐**及び燕の后妃、王公、百官並びに鮮卑四萬餘戸を長安に遷す。（後に之が、西燕再興の起爆剤となる）
前秦［**王猛の梁琛らの評価**］**王猛**は表して**梁琛**を留めて主簿と為し，記室督（諸侯に各々一人あり）を領せしむ。它日，**猛**は僚屬と宴し，語りて燕朝の使者に及び，**猛**は曰く、
「人心は同じからず。昔**梁君**（梁琛）長安に至り，專ら本朝（前燕）を美とす。**樂君**（樂嵩）は但だ**桓溫**の軍盛んなるを言う。**郝君**（郝羿）は微かに國弊を說く。」
參軍の**馮誕**は曰く、
「今三子は皆な國臣（秦の臣）と為り，敢えて問う、臣を取る之道は何れが先か？」
猛は曰く、
「**郝君**が幾を知るを先と為す。」
誕は曰く、
「然らば則ち**明公**は**丁公**を賞して而して**季布**を誅する也。」（臣を取る場合の方針は、漢の高祖とは違う）

猛は大いに笑う。

【燕復活の伏線】

前秦［苻堅は燕の王族も優遇する］秦王の**堅**は鄴より枋頭に如き，父老と宴し，枋頭を改めて永昌と為し，之を復すこと終世（秦の終わるまで賦役を免除）。甲寅（１４日），長安に至り，**慕容暐**を封じて新興侯と為す。燕の故臣の**慕容評**を以て給事中と為し，**皇甫真**を奉車都尉と為し，**李洪**を駙馬都尉と為し，皆な朝請を奉ぜしむ。**李邽**を尚書と為し，**封衡**を尚書郎と為し，**慕容徳**を張掖太守と為し，燕國の**平睿**を宣威將軍と為し，**悉羅騰**を三署郎と為す。其の餘の封授は各々差有り。**衡**は，**裕**（慕容皝の忠諫の臣）之子也。

▲［燕は必ず中興せん］燕の故の太史の**黄泓**（慕容儁に事え様々知る）は歎いて曰く、

「燕は必ず中興せん，其れ**呉王**（慕容垂）在り乎！吾は老いて，見るに及ばざるを恨む耳！」

汲郡の**趙秋**は曰く、

「天道は燕に在り（歳星が燕にある），而して秦は之を滅ぼす。十五年に及ばすして，秦は必ず復た燕の有と為らん。」

▲［慕容鳳の徒党の将来］**慕容桓**之子の**鳳**は，年十一にして，陰かに復仇之志有り。鮮卑、丁零の氣幹有る者は，皆な傾身して之と交結す。**權翼**は見て而して之に謂って曰く、

「兒は方に才望を以て自ら顯わす，爾（なんじ）の父の天命を識らざるに效（なら）う勿かれ！」

鳳は厲色して曰く、

「**先王**は忠を建てんと欲して而して遂げず，此れ乃ち人臣之節なり。(6-215p) 君侯之言は，豈に將來を獎勸する之義を乎！」

翼は容を改めて之に謝し，秦王の**堅**に言って曰く、

「**慕容鳳**は忼慨にして才器有るも，但だ狼子野心（左傳にあり、楚の令尹子文の言）あり，終に人の用を為さざるを恐れる耳。」

前秦秦は雍州を省く。（司令校尉に置く）

■是の歳，仇池公の**楊世**は卒し，子の**纂**は立つ，始めて秦と絕つ。叔父の武都太守の**統**は之と國を爭い，兵を起こして相い攻める。

令和 2 年 12 月 28 日　　翻訳開始　10584 文字
令和 3 年 1 月 2 日　　翻訳終了　21752 文字　現代地名・年表対応
令和 3 年 12 月 12 日　　書下し終了 22330 文字